随筆

「ブラタモリ伊勢」顛末記

飯　田　良　樹（久居一志地区）

３月中旬の土曜日夜10時頃に、懇意にして頂いている中京大学の千枝大志氏より「先生、助けて下さい」と電話が入った。病気の事ではなくNHK番組「ブラタモリ伊勢」の案内人に急遽決まり、４月５日タモリさんが伊勢に来られてロケが始まるが資料が揃わない、私が収集した資料を使わせてもらえないかとの事であった。

内容は、伊勢参宮について。タモリさんがブラブラと歩いて解き明かすとの事で、その時に宮川の渡しの版画や中川原（宮川を渡って最初の茶屋があった場所）での客引きが書いてある道中定宿帳などを用意したいが、博物館などは貸出に手続きが必要で時間的に間に合わない、急な話で申し訳ないが、明朝10時に河崎の神社でNHKディレクター浜崎氏と会うから、そこまで持ってきて欲しい。

それからが大変。版画類はファイルに整理しているが、道中定宿帳は３つの箱に無造作に入れてあるだけだったので、中川原客引きが書いてある物を、妻と２人で百冊以上の道中定宿帳から明け方までかかり、やっと３冊見つけ出した。

版画ファイルと道中定宿帳を持って河崎に着くと、千枝氏、浜崎氏（30代前半の好青年）と番組制作担当の小山氏（同じく30代の若者）が待ち受けていた。版画類を小山氏に渡しどのように処理するのか見ていると、A2大の版画を棒状のスキャナーで取り込み始めた。原理はコピー機の中で動いているスキャナーと同じで動かす速度にコツがいるとの事であった。

その時に浜崎氏から「ブラタモリ伊勢」について伺うことができた。流石NHKでブラタモリクルーだけでも10組ほどあり、製作が決まってから撮影２ヶ月前より現地入りして話のネタ仕込み・案内人探しをするとのことで、それらを上司のプロデューサーに報告して許可をもらう。浜崎氏担当の伊勢編は思わぬ不都合があり、１ヶ月時間を費やした後やっと千枝氏が案内人に決まった。

決まった過程が面白い。１ヶ月のロスに途方にくれた浜崎ディレクターは相談する人のいないまま自分自身でいろいろな本を調べて脚本を書き始めたが解らないことが沢山出てきた。たとえば、御師の読み方「おんし」と「おし」はどう違うのか？誰に尋ねてもわからない日が過ぎた。山田のある店で先祖の山田羽書を所持している冨田さんを紹介され河崎の御自宅で話を聞いていると、河崎の宿泊所から鳥羽へ調査で近鉄急行に乗ろうと、千枝氏が大きな旅行鞄を引きずって家の前を歩いて行くのに冨田さんが気付いた。山田羽書を説明していた冨田さんと伊勢河崎まちづくり衆理事長で建築家の高橋氏が口を揃えてあの人ならば山田羽書の第一人者であり中世伊勢商業の本も出版していると言われ、浜崎氏が話を聞くと理論立てての説明に加え、大きな旅行鞄から出して示される資料での確かな裏付けに、この人こそ案内人に相応しいとなったそうだ。両者にとって運命の出会いであった。

その後、千枝氏と浜崎氏とでブラタモリ台本作りが始まったが時間がどんどん過ぎ、前文で書いた経緯で私に資料依頼となった。

資料のコピーが終了し私の出番は終わったと思ったら、１週間後の３月末の土曜日に、以前話した事があるNHK津支局のディレクター名前で携帯電話が鳴り小山氏の声が聞こえた。プロデューサーの意向で「ブラタモリ伊勢」の放送が２回に増えたので古市も撮影対象になった。そこで古市関係の浮世絵や古書を明日伊勢まで持ってきてもらえないかとの依頼であった。日曜日は榊原温泉で私の住む村の役員引き継ぎ飲み会の先約があった。「なんで津支局のディレクター携帯から？」と尋ねると、いろんな所に電話を掛けまくり電池切れで隣にいた津支局のディレクター携帯を借りた由、なんだか可哀そうになり、翌日の飲み会はシラフで通し皆の不審顔を後に伊勢に向かった。（ブラタモリは人気番組でロケ日を知られるとパニック

となる為に他言無用と言われていた）

平謝りの浜崎氏と小山氏に資料を渡したら、出来れば『伊勢参宮名所図会』をお持ちであればしばらくお借りしたいとの事で名刺に借り出しの一筆を頂きお貸しした。

４月５日のロケ当日は診療日なので残念ながら伊勢へ行く事が出来なかった。しかし逐一に千枝氏から携帯電話が入り、今伊勢神宮宇治橋前のバス内で待機中、２時間以上待つのにロケ隊戻ってこず。段々緊張して胃が痛いどうしよう。以前渡した胃腸薬を服用しなさいと指示。後で判明したのだが当日は皇学館大学の入学式で式後の神宮参拝学生集団にタモリさんが囲まれてロケが大幅に遅れたのだそうだ。

ロケは２日間行われた。初日は内宮と第２回目放送のおはらい町の撮りだめが行われた。どの場面をどこに使用するかわからないので、２日間は同じ服装、髪形で参加してくださいと通達があったそうな。

次に宮川での撮影。中川原でのお茶屋と客引きの様子の説明と順調に撮影が進み、筋向橋に向かって歩いていたその時に、ゴミ出しのオバサンが「タモリさん私９代目、テレビ良く見てますよ」と元気よく話しかけてきたが、だんだん後ずさりして家に引っ込んで行く。千枝氏は台本にない飛び入りで慌てたが、さすが博学者、表札の喜多村を見て明治２年神宮遷宮を描いた喜多村豊景の子孫とタモリさんに告げ、難を脱した。スッピンに気が付いて家に引っ込んだオバサンは、10分後に化粧をして現れたが、その部分は気の毒にカットされ、タモリさんの後ろを走っていくゴミ収集車だけが放映された。

丸岡大夫邸も18代目丸岡氏と千枝氏の御師おもてなし料理解説で無事終了した。御師おもてなし料理は隣の割烹奥文で作られ、普段催しもので出される時は５千円だが、タモリさんに提供されたのは１万円でも採算が合わなかったとの事。後日、聞いた話では２～３口食べただけで収録時間が押していた為、すぐ古市に向かったとの事。残った料理は誰が食べたのかな？

まだまだ逸話はあるが、最後に私にとっての残念話を２つ。

放送初日の６月４日は私と丸岡氏の共通友人が群馬から夫婦で伊勢にお見えになったので丁度放送時間に接待をしたが、宴席にはテレビがなく、泣く泣く私達２人は後日ビデオ視聴となったこと。

もう一つ本当に本当に残念だったのは、ほとんど寝ずに探して車で届けた中川原の道中定宿帳説明場面が「喜多村のゴミ出しおばちゃん面白い」と言うプロデューサーの一言でカットされたことである。

余談。放送終了後にいろんなところから電話やメールが届いた。資料提供者に名前があったが何を提供したのか？とか、御礼は何を貰ったのか？である。タモリさんの似顔絵缶バッチとブラタモリ名入りの携帯ポットが御礼であった。

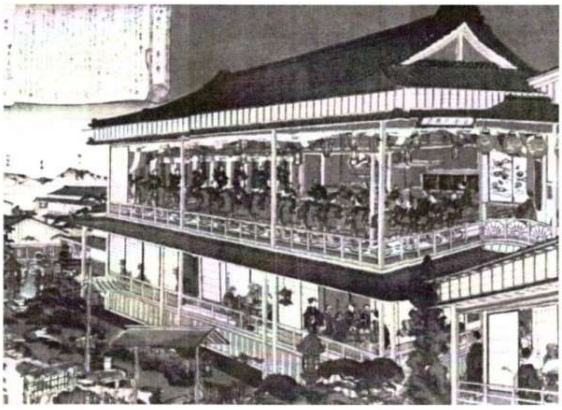
御礼のブラタモリグッズ

携帯ポットと缶バッチ

似顔絵とロゴ入りの携帯ポット

タモリさんの似顔絵缶バッチ

私が提供して使って頂いた資料は、
古市の説明につかわれた版画３点（バックに草薙剛さんのナレーションが流れた）と、



「杉本屋伊勢音頭の図」

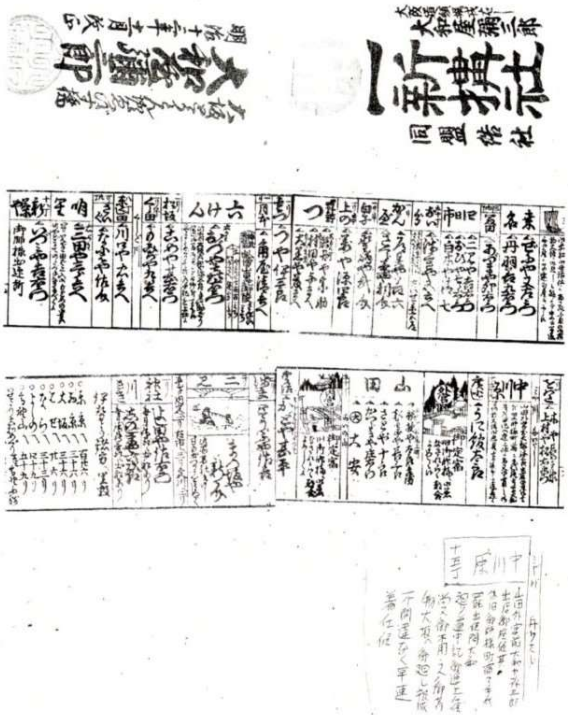
「備前屋桜花楼踊之図」

「伊勢音頭恋寝刃」

麻吉女将がパネルを持って説明し、またタモリさんが座敷で飲んでいる動画になった麻吉版画。桜の木々も揺れました。

「旅籠屋　料理屋　高楼聚遠景」

ボツになった道中定宿帳資料。



一番下は千枝氏直筆の翻刻文字。
ボツになったのでどの様にパネルになったかは不明。